

平成28年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔一般〕

平成28年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科 [音楽] 種目 [一般]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを備える文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団を始めとする優れた演奏を聴く機会や、日頃の学習の成果を発表する機会に恵まれた地域である。
- 日常的にポピュラー音楽に接する機会が多く、表現活動に興味・関心を示す生徒は多いが、読譜力を始めとする音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫 ③ 共通事項との関連
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 学習意欲を高めるための工夫 ⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い ⑨ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑩ 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫

3 各教科書の特徴及び意見

教育出版

1 基礎・基本の定着

(1) 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 第1学年で「Let's Sing!」というコーナーを設け、発声の基礎の定着を図っている。
- 指揮をする際の基本的なポイントを文と図で示している。

(2) 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について分かりやすく解説している。

(3) 共通事項との関連

- 音楽を形づくっている要素に着目することができるよう、「どんな特徴があるかな?」という特設ページを各学年で設けている。
- 楽曲を通して指導する共通事項を教材名の下に、言葉で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、現代の著名な音楽家や演出家のメッセージを掲載している。
- 巻末で、様々な楽器や我が国及び世界の舞台芸術を紹介している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「音のスケッチ」で各学年2~3つずつの創作活動を取り上げ、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 「速度の変化を聴き取ってみましょう。」「ホルンの祖先は、狩猟の時の合図に用いられたそうよ。」等、表現や鑑賞をする際のヒントや説明を「吹き出し」の形で示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年、第2・3学年上、第2・3学年下の順で、歌唱教材は、18、19、18、計55、創作教材は、3、2、2、計7、鑑賞教材は、6、7、6、計19としている。
- 3年間ですべての歌唱共通教材を掲載するとともに、我が国や郷土の伝統音楽を扱った鑑賞教材を3年間で9教材掲載している。
- 学習内容を、「音楽の要素をとらえながら」「さまざまな音楽文化」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つのテーマで構成している。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 発展的な学習として、各学年で、音が発生してから人が知覚するまでの物理現象や人が音を聞き分ける際の要素といった、音の物理的な性質について、その原理を解説している。
- 各学年の鑑賞教材において「聴き比べてみよう!」のコーナーを設け、比較聴取を通して鑑賞の学習をより深めようとしている。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- オペラの鑑賞教材では、総合芸術の特徴が分かるよう、舞台の全体像が分かる写真を掲載している。
- 雅楽や尺八曲の鑑賞教材では、速度の変化を表す図を用いて、日本の伝統音楽の特徴である「序破急」を示したり、文章で「間」について解説したりしている。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫

- 第2・3学年上・下の創作教材「音のスケッチ」で、作品を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 各学年の鑑賞教材において、楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを書き込むための「伝えてみよう!」の欄を設け、言葉で伝え合う活動を設定している。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、巻頭の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、現代の著名な音楽家や演出家のメッセージを掲載していること、「音のスケッチ」のコーナーで各学年2~3つずつの創作活動を取り上げ、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、各学年の鑑賞教材において、楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを書き込むための「伝えてみよう!」の欄を設け、言葉で伝え合う活動を設定していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 各学年で「My Voice!」というコーナーを設け、発声の基礎の定着を図っている。
- 指揮をする際の基本的なポイントを文と図で示すとともに、効果的な指揮の仕方についても示している。
- 表現の基礎を定着させるために、各学年で、音符や休符、記号の名称や意味、簡単なリズムの読み書きを定着させるための「BINGO GAME」「RHYTHM GAME」というコーナーを設けている。
- 低音部の学習の導入をしやすくするため、初めて学習するへ音譜表の一段目に階名を記している。

(2) 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について分かりやすく解説している。

(3) 共通事項との関連

- 音楽を形づくっている要素に着目することができるよう、巻頭に「音楽学習 MAP」という特設ページを各学年で設けている。
- 楽曲を通して指導する共通事項を教材名の横に、アイコンで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭で、世界の音楽文化と日本の音楽文化の様子を掲載している。
- 巻末で、様々な楽器や世界の祭りや踊りを紹介しており、特に、能、歌舞伎、文楽といった我が国の伝統芸能を多く紹介している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「My Melody」及び「Let's Create!」で各学年2つずつの創作活動を取り上げ、Warming up、①、②、③の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 思考・判断をさせるための問いかけを「吹き出し」の形で示している。
- 各学年で「Grade up!」のコーナーを設け、パートの役割や曲の構成について考えさせ、思いや意図をもって創造的に表現させる学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 歌唱教材を計60、創作教材を計6、鑑賞教材を計25としている。
- 3年間ですべての歌唱共通教材を掲載するとともに、我が国や郷土の伝統音楽を扱った鑑賞教材を3年間で10教材掲載している。
- 前半に歌唱教材、後半に鑑賞教材を配置している。
- 巻頭の「音楽学習マップ」で、表現と鑑賞の関連を示している。

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 発展的な学習として、各学年で、鑑賞教材の誕生と同時代の日本の歴史的事象を紹介したり、音楽用語が生まれた背景を紹介したりしている。また、日本の伝統的・歴史的な事象、自然音や音環境に関する日本人の伝統的な感性について考察したりする活動を設定している。
- 各学年の表現及び鑑賞の教材において、「Challenge!!」のコーナーを設け、教材と関連した学習活動を示し、学習をより深めようとしている。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- オペラの鑑賞教材では、総合芸術の特徴が分かるよう、舞台の全体像が分かる写真を掲載するとともに、オーケストラの位置について示した図も掲載している。
- 箏曲や尺八曲の鑑賞教材では、速度の変化を表す図を用いて、日本の伝統音楽の特徴である「序破急」を示したり、文章で「間」について解説したりしている。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫

- 各学年の創作教材で、作品を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 各学年の「Grade up!」「ここに注目してみよう!」のコーナーや吹き出しで、歌唱教材では表現の工夫のしかたについて考えたことを話し合う活動、鑑賞教材では楽曲を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 第2・3学年下の鑑賞教材で、プレゼンテーションするための手順を示し、鑑賞曲のよさをプレゼンテーションする活動を設定している。また、その手法を別の鑑賞教材で活用するよう示している。

意見

教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書の特徴である、各学年2つずつの創作活動を取り上げ、Warming up、①、②、③の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、思考・判断をさせるための問いかけを「吹き出し」の形で示していること、各学年にコーナーを設け、パートの役割や曲の構成について考えさせ、思いや意図をもって創造的に表現させる学習活動を示していること、各学年にコーナーや吹き出しを設け、歌唱教材では表現の工夫のしかたについて考えたことを話し合う活動、鑑賞教材では楽曲を聴いて感じたことを話し合う活動を設定していること、第2・3学年の鑑賞教材で、プレゼンテーションの手順を示し、鑑賞曲のよさをプレゼンテーションする活動を設定するとともに、その手法を別の鑑賞教材で活用するよう示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

平成28年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔器楽合奏〕

平成28年度から使用する中学校用教科書の採択について

教科 [音楽] 種目 [器楽合奏]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを備える文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団を始めとする優れた演奏を聴く機会や、日頃の学習の成果を発表する機会に恵まれた地域である。
- 日常的にポピュラー音楽に接する機会が多く、表現活動に興味・関心を示す生徒は多いが、読譜力を始めとする音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 共通事項との関連
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

教育出版

1 基礎・基本の定着

(1) 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて分かりやすく解説している。
- 生徒が常に参照できるよう、巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボードコード表」を掲載している。また、ギターのTAB譜も掲載している。

(2) 共通事項との関連

- 「Let's Play!」や「Let's Try!」で、楽曲を通して指導する共通事項を文章で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭、巻末の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、著名な音楽家の写真とメッセージを掲載している。
- 巻頭の「制作現場を訪ねて」で、演劇やミュージカル、映画などで使われる音楽のコンピューターによる音源制作やスタジオ・レコーディングの様子を写真と言葉で紹介している。
- 巻末の「名曲旋律集」で、歌唱共通教材の楽譜に箏で演奏できる楽譜を付し、歌のイメージをもって演奏に取り組めるようにしている。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「音のスケッチ」で3つの創作活動を取り上げ、内2つで、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」に口絵を付して構成している。
- リコーダー曲を25曲、ギター曲を6曲、和楽器曲を15曲、アンサンブル・合奏曲を21曲掲載している。（計67曲）

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 水道管で篠笛を作る活動を示している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の見出しと共に、演奏場面の写真を掲載している。
- 楽器のルーツや系譜、構造を文章や写真で示している。
- 太鼓について、様々な演奏形態が比較できるように写真を掲載している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫

- 「自分が興味をもったほうの作品について、みんなに紹介する文章をかいてみよう。」「曲全体を通して聴いて、自分がいちばんおもしろいと感じた部分を、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」等の言語活動例を示している。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、巻末の「名曲旋律集」で、歌唱共通教材の楽譜に箏で演奏できる楽譜を付し、歌のイメージをもって演奏に取り組めるようにしていること、3つの創作活動を取り上げ、内2つで思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、「自分が興味をもったほうの作品について、みんなに紹介する文章をかいてみよう。」「曲全体を通して聴いて、自分がいちばんおもしろいと感じた部分を、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」等の言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八・打楽器）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて分かりやすく解説している。
- 生徒が常に参照できるよう、巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボードコード表」を掲載している。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、Q&A方式で示している。

(2) 共通事項との関連

- 「アンサンブルセミナー」では、楽曲を通して指導する共通事項をアイコンで示し、「アンサンブル」では文章で示している。
- 巻頭に「音楽学習MAP」という特設コーナーを設け、音楽を形づくっている要素に着目することができるようにしている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭の「楽器と出会うー奏者から皆さんへ」で、著名な音楽家の写真とメッセージを掲載している。
- 巻頭の「比べよう」で、様々な長さの尺八や篠笛を紹介している。
- 「楽器の音色を聴いてみよう」のコーナーを設け、楽器特有の音色のイメージをもって演奏に取り組めるようにしている。
- 「音を聴いて確かめよう！」のコーナーを設け、より豊かな表現を工夫するためのヒントを示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「My Melody」等で3つの創作活動を取り上げ、手順①、手順②等の表し方で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 「アンサンブル」で「楽器の組み合わせ方を工夫しよう」のコーナーを設け、思考・判断し表現する学習を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・題材や資料等の配列・分量

- 「Let's play instruments!」「アンサンブルセミナー」「アンサンブル」「名曲スケッチ」に口絵を付して構成している。
- リコーダー曲を24曲、ギター曲を3曲、和楽器曲を7曲、アンサンブル・合奏曲を21曲掲載している。(計55曲)

(2) 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「Challenge!!」のコーナーを設け、発展的な学習活動を示している。
- 箏の掲載箇所に、「姿勢と礼儀」のコーナーを設け、日本の伝統文化の精神について説明している。

4 内容の表現・表記

(1) 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の見出しと共に、演奏場面の写真を掲載している。
- 「楽器を知ろう」やコラム「和楽器こぼれ話」で、楽器のルーツや系譜、構造を文章や写真で示している。
- ギター・三味線・太鼓について、様々な演奏形態が比較できるよう写真を掲載している。
- リコーダー・三味線・篠笛について、構え方の失敗例や奏法の重要な部分をアップや吹き出しで示している。

(2) 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

5 言語活動の充実

(1) 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫

- 「アンサンブルセミナー」に「Grade up!」のコーナーを設け、グループで話し合いながら思考・判断したり表現したりする言語活動例を示すとともに、工夫する視点を吹き出しで示している。

意見

教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書の特徴である、「音を聴いて確かめよう！」のコーナーを設け、より豊かな表現を工夫するためのヒントを示していること、「My Melody」等で3つの創作活動を取り上げ、手順①、手順②等の表し方で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、生徒に創造的な表現活動に取り組ませるための「アンサンブル」のコーナーで、「楽器の組み合わせ方を工夫しよう」のコーナーを設け、思考・判断し表現する学習を設定していること、創造的な表現の基礎を身に付けさせるための「アンサンブルセミナー」のコーナーに「Grade up!」のコーナーを設け、グループで話し合いながら思考・判断したり表現したりする言語活動例を示すとともに、工夫する視点を吹き出しで示していることは、思考力、判断力、表現力の育成をめざすひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。